第４４回　ホノケ山自然観察会・清掃登山報告

自然保護委員長　栗木洋明

６月９日、ホノケ山での自然観察会は、４団体、総勢２７名が参加。梅雨時の一瞬の雨間、曇り空ではあったが爽やかな空気に包まれ、ラッキーな登山日和であった。

乗鞍青少年交流施設での前回に続き、今回もゴキゲン植物学専科、小野木三郎先生の指導のもと、中身の濃い観察会が実施できた。２７名という大所帯であったが、山に響く小野木先生の声は途切れることを知らず、言葉遊びとダジャレを交えた小野木節は参加者の心をとらえ、自然と話の中に引き込まれていくようであった。

標高７３７メートルのホノケ山はコースタイム１時間３０分ほどで登れる山であるが、午前９時から１２時までの３時間をかけ、立ち止まって話を聞いている時間のほうが長いという、超スローペスで、感心したり驚かされたりの連続で興味深く、あっという間の３時間であった。

山頂での昼食タイムも、楽しみにしていた日本海の遠望は望めなかったが、和やかな雰囲気で会話が弾み、いつしか会の垣根を越えた会話が盛り上がっていた。下山時に山頂に登ってきた地元の登山者に写真撮影を依頼し、山頂を後にした。梅雨の合間で登山道がしめりがちなので、滑らないように注意しながら下山。下山時も小野木先生の周りには常に人が集まり、一言も聞き漏らすまいという熱意がみなぎっていた。

自然観察会では、今までに何人もの方にお世話になったが、小野木先生ほど熱弁で目から鱗の興味深い話を聞いたことがない。今後も機会があれば、是非また小野木先生の自然観察会を企画したいという思いを強くして会を閉じた。